2012年(平成24)10月

カルメル 霊性センターニュース

SAINTE THERESE DE L'ENFANT-JESUS. 1895

2012年10月　280号

目次

特集
教皇メッセージ　“輝く星”　・・・・・・・1

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・２３

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９

年間購読(郵送)のご案内・・・・・・・・・・・・・５０

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５１

特　集

教皇メッセージ　“輝く星”

次のメッセージは、スペインのアビラのサン・ホセ修道院創立と、イエスの聖テレジアによるカルメル会改革の開始、450 周年にあたって、教皇ベネディクト十六世が、アビラ教区のヘスス・ガルシア・ブリーリョ司教に送られたものです。（2012 年 7 月 16 日付け 山口カルメル会訳）

※ 霊性センターニュース１０月号～１１月号に連載します。

私の尊敬申し上げる兄弟、アビラのヘスス・ガルシア・ブリーリョ司教様、

１．　Resplendens stella: “大きな光輝を放つ星”（「自叙伝」32・11）。　この言葉をもって、主はイエスの聖テレジアにアビラのサン・ホセ修道院を創立するよう励まされました。これは、カルメル会改革の開始でした。その 450 周年を来る 8 月 24 日に祝います。この祝された機会に、私は、愛するアビラ教区、跣足カルメル会、そして、スペインに巡礼中の神の民、又、普遍教会において、キリストが自分の生活を刷新させるという事実を発見するための確かな光を、テレジアの霊性のうちに見出したすべての人々と喜びを共にしたいと思います。　主を熱愛したこの傑出した女性は、全てにおいて主をお喜ばせすること以外には、何も望みませんでした。まことに、聖なる人とは、自分の人間的な優れた資質によって偉大な事を行なう人々ではなく、むしろ、謙虚に自分たちの心にキリストを浸透させ、あらゆるプロジェクトを鼓舞し、沈黙を保ちつつ、自分たちのあらゆる活動と望みにおいて、キリストが主導権を握るようにする人々なのです。

２．　深い祈りの生活をする人々だけが、このような仕方で自分をキリストに任せることが出来るのです。アビラの聖女は言います。祈りの生活は、“私たちを愛してくださっていると知っているお方との、ただ二人だけでたびたび語り合う友情の親密な交換”（「自叙伝」8・5）にあることを。　私たちを内的喜びで満たすカルメル会の改革は、祈りから生まれ、祈りへと心を向けさせます。　イエスの聖テレジアは、より徹底的に「初めの会則」に戻るために、緩和会則から離れて、主との個人的な出会いを大切にする生活様式を促進したかったのです。　“私たちが、孤独（ひとり）となって、自分のうちに現存される方を見る場所を見出しさえすればよいのです。このようにご親切なお客様によそよそしくしてはいけません。”（「完徳の道」28・2）。　サン・ホセ修道院は、まさに、そのすべての娘たちが、神を見出し、神との深く親密な交わりを培う最上の条件を持つことができることを目指して生まれたのです。

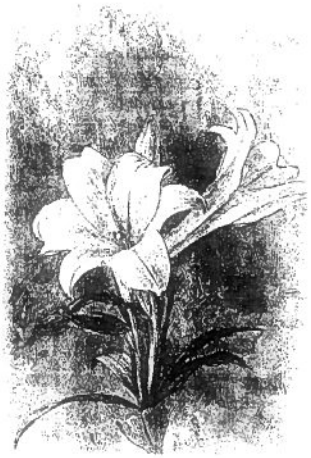
3．　聖テレジアは、世界が新しくなっている時代に、カルメル会員の新しい生き方を提示しました。 それは“危険な時代”（「自叙伝」33・5）でした。この霊的師が言うように、そのような時、“神の友は、弱い者を支えるために強くなければならなかった”（同上　15・5）のです。　彼女は雄弁に力説します。　“世はまるで火事のようではありませんか。あの無数の偽証人を立ち上がらせているからには、言わばキリストをふたたび処刑したいのです。キリストの教会を地に打ち倒したいのです・・・・、　いいえ、姉妹たちよ、違います。今はくだらないことを神にお願いする時ではありません”（「完徳の道」）1・5)。　四世紀以上も前に、この聖なる神秘家によってなされた非常に明快で、挑戦的な考察は、現代にあっても、私たちにとって近く感じられるのではないでしょうか。

精神的な価値を認めない世界のただ中にあっての、テレジアの改革と新修道院設立の究極の目的は、祈りで使徒的活動を強めること、また、すべての真正な個人的、また、教会的な刷新は、私たちの内にキリストの“すがた”（ガラテア 4・19 参照）をさらに忠実に再形成することにあるという確信から、いわば、完徳の道を探し求めている人々に、一つのモデルとしての福音的な生き方を提示することでした。聖テレジアとその娘たちは、まさにこれを実践しようと熱心に励みました。そして、これは、“徳に進むこと“（「自叙伝」31・18）だけに努める彼女のカルメル会の息子たちの献身でもありました。これについてテレジアは次のように書いています。「主の憐れみに助けられて、私たちが何らかの手段や祈りによって主のもとに引き寄せる一人の人の方を、私たちがなしうるすべての奉仕よりも、主は高く評価されます」（「創立史」1・7)。　”神の不在“の状況に直面して、この聖なる教会博士は、至るところでキリストの名を告げ知らせている人々を、自分たちの熱心さで支えるようにと、祈りの共同体を励まします。こうして、彼らは教会の必要のために祈り、救い主の心にすべての人々の叫びを運ぶでしょう。

AÑO JUBILAR
San José de Ávila
450 Años
1562 - 2012

（次号に続きます）

心 の 泉



第一巻
第二十四章　罪人の審判と罰

２　救いへの道

侮辱を受けて、その受けた侮辱よりも相手の悪事のために悲しみ、自分に反対する人々のために快く祈り、心からその罪をゆるし、相手にゆるしを乞うのをためらわない人、また、怒るよりもむしろ優しくあわれみ、しばしば自分自身を責め、肉体をまったく霊に服させようとする忍耐をもつ人は、もはやこの世において、救いを得させる煉獄を通っているのである。

来世で償いをするよりも、今、罪を償い、悪を根絶するほうがよい。しかし、肉体に対してもっているよこしまな愛のために、私たちは自分自身をあざむきがちである。

３　罪の罰　(1)

煉獄の火が燃やすのは、あなたの罪以外の何を指すのであろう？今、あなたが自分自身に甘ければ甘いほど、そして自分の肉に従えば従うほど、いよいよ苦しい罰を受け、いよいよ多量の燃料を積むのである。

人は罪を犯した五官を特に罰せられる(知恵 11・16 参照)。怠け者は燃える鞭打ちの枝に刺されるであろう。美食の人は、恐ろしい飢えと渇きに苦しめられるであろう。淫行の人や快楽を追った人は、燃える歴青と臭い硫黄とのなかに、沈められるであろう。またねたんだ人は、あまりの苦しみに、狂犬のようにほえたけるであろう。

神と親しく生きるために　－１０－

１０月 11 日から来年の 11 月「王であるキリストの祝日」までを教皇様は信仰年と宣言なさいました。「『信仰の門』に入るとは生涯にわたって続く旅に出発することです。その門を通って神との交わりの生活へ、神の教会へと導かれます。」（『ポルタ・フィデイ』教皇ベネディクト 16 世）。この旅を始めたものは、神との一致に至るまで、日々神との親しさのうちに生きるよう招かれます。どのような状況においても、神の慈しみの愛を信じ、さらに深く信じて歩み続けることです。

「信仰の門」は　常にわたしたちに
開かれています
この門に入るとは
生涯にわたって続く
旅に出発することです

信仰年
２０１２～２０１３

神に触れ、神の恵みとその慈しみを受けるにはどうしたらよいのでしょう。神はご自分の愛をわたしたちのうちに注ぐために、わたしたちに何を求めておられるのでしょうか。どのような協力が必要とされているのでしょう。

十字架の聖ヨハネは必要条件として「信仰」だと答えます。「信仰は神に到達する唯一つの手段である」といいます。信仰は神とわたしたちを隔てているこの無限の距離を越えて神に届くアンテナとでも言いましょうか。威力をもって神に触れるので、神はご自身を注がれます。なぜなら神は愛であり、燃え避ける日なのですから。紙切れを真っ赤に燃える火にくべたらどうなるでしょうか。燃え上がります。

～　尊者マリー・エウジェンヌ神父　～

『いのりの道』（聖母の騎士社）より

伊従　信子
ノートルダム・ド・ヴィ

インドネシア紀行〈2〉

九里（くのり）　彰

足かけ 5 日間の会議が終わり、私は翌日、インドネシアの管区長と共に、インドネシアから独立した東チモールのあるチモール島へ飛行機で移動。クーパンにある哲学勉学中の神学生の家を訪問するためであった。飛行機はプロペラ機。2 時間ぐらいかかって、クーパンに到着。（神学勉強中の神学生の家は、ジャワ島のジョグジャカルタにあり、今回は、時間がないため、訪問を断念。）

哲学神学生の家は、クーパンの飛行場から近道を通ると、車でわずか 5 分のところ。3 ヘクタール（9 千坪余）の敷地に修道院と黙想の家とホール。（このホールでは、日曜のミサが行われている。数百名は入るそのホールも日曜は満杯で、外にテントを張り、椅子を何十も並べる状態。全員が入れる聖堂を建てる計画が進行中）。その他、そこで働く人々のために、修道院の右端に男子の家、左端に女子の家がある。どちらにも 3～4 人が住んでいる。後は、バナナやココナツなどの果樹園や野菜畑などがあり、神学生たちのための運動場もある。何しろまっ平らで、まだまだ空き地がある。（近くにある他の修道会を、着いた日の午後、二つ訪問したが、いずれも 3 ～ 4 ヘクタールの土地に修道院が建っていた。）

哲学生は 25 名、司祭は 5 名、全体で 30 名の共同体である。入会希望者は後を絶たず、毎年、上限を 15 名に抑えているという。閑古鳥が鳴いているどこかの国とは大違いである。

私が泊まった部屋は、管区長の部屋の隣の修室。部屋の広さは、日本の修室の二三倍はある。カーテンのように薄い布が真ん中に仕切りのように垂れ、部屋を二分していた。クーラーは入っておらず（デンパサールの黙想の家には日本製品が入っていた）、天上に大きな扇風機。気温はバリより暑く蒸すと聞いていたが、それほどではなかった。今は乾季で、からっとしており、湿度の高い猛暑の日本に比べれば、きわめて快適な感じがした。毎日、晴天で、雨の降る気配がまったくなかった。

トイレには、ここでもトイレット・ペーパーがついており、レバーも機能。シャワーも一応機能。水が貴重であることが、ひしひしと感じられた。広い天上の二か所にある蛍光灯は、ベッドのある方はついたが、机のある方はつかず（電気スタンドはない）、ついている方の灯りを頼りに、本やノートを広げた。

（続く）

ヘンリ・ナーウェンの旅路の糧（158）

下降志向

私たちが生きている社会では、無数の仕方で、人間の歩むべき道は上ることであると告げています。頂上にたどりつくこと、脚光を浴びる地位につくこと、記録を破ること……　それらは、人々の注意を引き、新聞の第一面に載り、富と名声という報酬をもたらします。

イエスの道は、根本的に異なります。それは、上へと昇る道ではなく、下へと降る道です。仲間の背後にとどまり、しんがりを選び、どん底へと降りて行く道です。イエスの道は、なぜ選び取るに値するものなのでしょうか。なぜならそれが、神の国への道であり、イエスが選び取った道であり、永遠の命をもたらす道だからです。

（0628）

教会の片隅へとおもむくこと

この世の片隅にいる人々は、教会の中心にいるのです。そしてこのことは、まさにそう考えられるべきことなのです。こうして私たちは、社会の片隅におもむくよう、教会のメンバーとして呼ばれているのです。ホームレスや飢えている人々や親のいない子供たちやエイズの人々や情緒的に障害のある兄弟姉妹たち……　彼らは、私たちが直ちに彼らに目を向けるよう求めているのです。

私たちは、社会の片隅に全力をもってたどり着く時、ささいな不一致や実りのない討論や緊張を強いる競争意識などが弱まり、次第に消えて行くことに気づくでしょう。教会は、私たちの意識が自分自身から、私たちの配慮を必要としている人々へと移行する時、絶えず新たにされることでしょう。イエスの祝福は、いつも貧しい人々を通して私たちのところへやって来ます。貧しい人々と共に働いている人々のもっとも顕著な体験は、結局のところ、貧しい人々が私たちから受け取る以上に、たくさんのものを私たちに与えてくれるということです。彼らは私たちに糧を与えてくれるのです。

（1101）

（九里　彰訳）

「神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない」(ﾏﾙｺ 10,15)。

イエスが、ガリラヤでの神の国の宣教活動を終わって、エルサレム、十字架の死が待っている土地への旅の途上で、ファリサイ派の人々はイエスを試そうとして離婚の正当性の質問をします。その質問を手がかりとしてイエスは教えるのです。「夫が妻を離縁することは、律法に適っているでしょうか」、こう尋ねている人たちは、モーセ、つまり律法が離縁状を書いて離縁することを許していることを知っています。しかし、イエスは、モーセの権威、旧約での神の律法の権威を無視して、これとは異なった判断をすると、予感しているからこその質問です。イエスは、はっきりと答えます。「神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない」と。それは、モーゼ以前からの、天地創造の初めからの神の計画、神の愛の思し召しである、と言うのです。聖書は、人間の創造、男と女としての創造に、神と人類を代表とする全被造界との愛の親しい交わりの関係の反映を見ています。神は、創造で始められたこの関係に誠実であり続けます、たとえ、被造界の側からは忠実さを守り、持続できない事態に陥ったとしても、神は、その被造界を見捨てることなく、新しい可能性と展望に導き続け、神のみが知る完成、成就に至らせるのです。実に、モーゼに導かれて出エジプトを果たし、シナイ山での神との契約に始まるイスラエルの歴史は、神が、その民、無償で選び出し、花嫁と呼ばれるものとした民に対しての誠実な夫であり続ける歴史です。イスラエルが不誠実にも神に従順でなく、その結果として苦境に陥った時にも、神は、イスラエル、その花嫁を見捨てることなく、むしろ、その逆境をないことにしてではなく、かえって、逆境を凌駕することで、より深い愛の関係にイスラエルを浄化し、成熟させて行きます。この神と全人類の関係、誠実な神と不忠実な神に反逆する罪人たちの関係は、十字架上のイエスの姿に至りつきます。イエスの十字架の上の死は、実に、反逆する人類に対する神の誠実さの頂点であり、また、復活は、神が人間への誠実さの中に始めてくださる新しい生命を告げているのではありませんか。「神が結び合わせてくださったもの」、男と女の関係も、この神とイスラエル、人類の関係が反映しているに違いありません。この神の愛の深層は、人間の知恵では悟りきれるものではありません。人間が自分の自然的判断で神が合わせてくださったものを引き離す時、その絆は、神の創造的な、誠実な愛から引き離され、人間の赦すことを知らない浅知恵の中に閉じ込められるのです。ルカ　渡辺幹夫

年間２８主日（B）　みことばのひびき

「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか」

（マルコ　10：17～30）

誰でも自分の生涯の中で何か立派なこと、重要なことをしたいという望みを持っています。自分で目標を定め、何とかしてそれを達成したいと思います。本日の福音に登場する若者は永遠の命を望みました。しかし、この人は物質的持ちものに大変執着していました。掟のことはよく知っていましたし、忠実にそれに従い、善い生活をしていました。しかし、自分の持ちものを犠牲にして永遠の命を最終ゴールにしたいとは思っていませんでした。イエスは財産に執着する人が神の国に入るのはどれほどむずかしいかを説明するためにらくだと針の穴の話で比喩的に説明しました。

マルコはイエスが人を「愛」で見ていると言います、それは他人の最も深い幸福への関心に広がる愛です。一人ひとりに広げるように福音が私たちに求めているような愛で、イエスが最後の晩餐で話されたように分かち合い、愛を与える生活を指しています。「私があなたたちを愛したようにあなたたちも互いに愛しあいなさい」と話されているような、十字架から私たちに示された愛です。イエスが導いているのは人に対するこの愛です。この金持ちの青年は善い人でした、イエスはこの人が更に善い人になるように求められたのです。イエスは彼が完全になるには何をするべきかを教えています。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っているものを売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすればあなたは真の宝を得るでしょう。それから、私に従いなさい」。それはイエスに従うために求められている無条件の犠牲でした。彼は富が決して神の祝福のしるしではないということに思いあたりませんでした。彼はすっかり気を落とし、ゆっくり悲しみながら立ち去りました。

神の国に入ることのむずかしさに対するイエスの教えは弟子たちを驚かせました。自分たちの信念と全く反対だったからです。彼らは物質的富と財産は神の祝福のしるしであると理解していたのです。この若者は旧約の古い人たちのように祝福を受取っていました。しかしイエスは新しい教えを与えます、富への執着と神の国とは両立しないということです。らくだと針の穴あるいは城壁の狭い門のたとえを話します。らくだが針の穴を通ることは実際にはむずかしいことです。しかし、イエスは救いは神のみ手にあり、神はご自分が呼び、選んだ人たちを救うということを弟子たちに話されます。一人ひとりに対する関心を示されます。

ペトロは弟子たちを代理して自分たちが行った犠牲のことを話します。彼らの犠牲は小さく単純なものでしたが、イエスは新しい天、新しい地、新しい愛の共同体を築くという多くのの報いを約束されます。祝福された希望を持ち続けられるように、智恵の贈り物が永久的に心の中に宿るように、私たちもイエスのみ名において天の御父に願い求めましょう。神の恵みが一人ひとりを豊かに照らし、私たちそれぞれがこの霊的求めに個人的に応じていくことができますように。私たちが永遠の命と神の王国を得るために、何か個人的な、価値のあるものを犠牲にすることができる恵みを求めます。

(Sr. Paulina)

「偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい」（ﾏﾙｺ 10,43-44）。

イエスの周りに呼び集められた弟子たちの相互関係は、イエス以前、イエス抜きのものとはまったく異なる原理の上に建設されます。まず、イエスは、「あなたたちも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている」、と弟子たちに確認させ、しかし、あなたたちの間では、その逆だ、と断言します。この逆転を起こす唯一の原動力は、イエス、この方の存在、その生き方のみです。「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を奉げるために来たのである」。ここで、イエスは、御自分のことを「人の子」と呼び、それは単純に「自分」と言っているかのようです。しかし、ダニエル書によれば、「人の子」は、神が派遣される不思議な人物を指し、その人は、「権威、威光、王権を受けた。諸国、諸族、諸言語の民は皆、彼に仕え、彼の支配はとこしえに続き、その統治は滅びることがない」（ﾀﾞﾆｴﾙ 7,14）。この預言の把握には、別の預言者、イザヤの「主の苦しむ下僕」の歌を参照するべきです。「病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ、彼は自らを償いの献げ物とした」（ｲｻﾞﾔ 53,10）。この「人」が、具体的に誰を指しているのか、旧約の世界ではその謎は解けていません。イスラエルの民そのものなのか、あるいは、預言者エレミヤのような一個人なのか。もし個人とすれば、具体的には、誰なのか。使徒言行録で、エチオピアの宦官が、預言者が指摘する苦しみを受ける「主の下僕」は誰のことか、とフィリッポに尋ねたとき、彼は、聖書のこの箇所から説き起こして、イエスについての福音を告げ知らせ、この宦官に洗礼を授けています。「人の子」は、イエス、その方と解されています。また、「主の下僕」は、アブラハム、モーゼを始め、神がイスラエルへの御自分の救いの計画を実現してゆく時に親しく選ばれた人たちを指しています。それで、イスラエルをバビロニア捕囚から解放した異邦人の王キュロスも神の下僕と呼ばれています。「下僕」とは、単に権力ある者、強い者に隷属する奴隷とは異なる次元に開かれている、つまり、一人一人の上への神の愛の救いの計画が実現されてゆくように執り成し、働く、神と人々への奉仕者となる人で、イエスに成就するのではありませんか。イエスの周りに集められた新しい共同体は、相互に神の愛の計画が成就してゆくように支え合う者たちの集団なのです。ルカ渡辺幹夫

年 間 第 30 主 日 (B)

“先生、目が見えるようになりたいのです”と言った　(マルコ 10:46-52)

今日の福音は、盲人の物乞い、ティマイの子バルティマイがイエスに懇願して目を見えるようにしていただく様子を伝えています。道端に座っていたバルティマイは、群衆のざわめきの中でイエスが自分のそば近くをお通りになると聞いて大声で叫び続けました。“ダビデの子よ、わたしを憐れんでください”と。イエスがこれまでに多くの人々の病を癒された偉大な方であることを知っていて、どんなに人々から退けられようとも、この幸いなチャンスを逃すまいと必死でした。“ダビデの子”というイエスにふさわしい敬称をもって叫び続けたのです。イエスのお目が自分に止まるように。この叫びを耳にされたイエスがバルティマイをお呼びになると、彼は上着を脱ぎ捨て躍り上がってイエスのところに来ました。

“何をしてほしいのか”とイエスはお尋ねになります。この盲人の夢、心からの願いが今こそ叶えられる時！彼はその偉大な恵みをいただけると確信しているようです。そこでバルティマイは“先生、目が見えるようになりたいのです”と応えます。イエスはこの謙虚なありのままの応えを受け入れてくださいました。これは典型的なキリスト者の祈願の祈りです。主は必ず応えて下さる！との確信をもって信仰のうちに願う祈りです。最初にわたしたちが出会った一人の盲人の物乞いは、イエスによって目が見えるようにしていただきました。彼がずうっと持っていたイエスへの信仰が実ったのです。その上彼は精神的な心の目も開いていただき、一人の人間としてこれから歩むべき道をもはっきりと見ることが出来たのです。彼はもう道端にただ座って物乞いをする者ではなく、イエスという永遠の命、天の御父への道にしっかり足を踏まえ、イエスに従って歩もうとしているのです。イエスは道であり真理であり命です。イエスを通らなければ誰も天の御父のところに至ることは出来ません。

今日の福音はキリスト者の生き方と主への巡礼の旅を要約して示しているようです。体の目が見えるようになることは望ましいことではありますが、精神的な心の目を開いていただくことは私たちの救いのためにもっと、絶対に必要なことです。このために私たちは主であり先生であるイエスにいつも熱心に祈らなければなりません。心の目を開いていただくと、“この世の知恵は神にとっては愚”にすぎないことを知るようになりこれを理解します。キリスト者として、この世の生活の意味をはっきり知り、根本的な回心に導かれます。すると、私たちが今ここに存在し、日々の生活において行っている全てのことの新しい価値、意味を見出すのです。祈りましょう、今日の神のみことばを通して、わたしたちが精神的な心の目の開かれた者となり、キリストの力と恵みのうちに、主と共に歩み続け、主の救いを一人でも多くの人々に証しして行けますように！そして再び祈りましょう、必要としている多くの人々に神の恵みが注がれ、心の目が開かれ、キリストへの信仰と愛のうちに新たな歩みを始めることができますように！

(Sr. Paulina)

座布団

丸山知佳子

皆さんの中に、大変な問題が次々と襲いかかって来て、自分が背負うことの出来るキャパシティーを超えていると感じている方、おられませんか？

短い間に、次々とご家族を亡くした方。自分が病気をして退院したら、今度は、ご主人が入院、手術することになった方。仕事を失った後、親が亡くなり、さらに自分も重い病気になった方。そして、私自身も、自分の癌の治療が終わった直後、母に癌が見つかり、その治療中、祖母が亡くなり、８月に、病人二人で葬式を出したばかりなのです。

次々と辛いことが重なると、心の休まるときがないですよね。今、これをお読みのあなたもそんな体験をなさっている最中かもしれません。

「安らぎが欲しいな。もう絶対に安全で安心という場所があればいいのに」と、さっきまで、寝転がりながら、しみじみと思っていました。

今の日本で、多くの人達が、安心を求めて一生懸命です。地震が起こらなさそうなところへの引っ越し、病気になったときのための保険、元気で長生きするためのサプリメントなど、知恵を絞り、色々なことをしています。私にもそういう部分があるので、その気持ちは痛いほどよく分かります。でも、私は、いくら何をしても「これで安心、もう大丈夫だ」とは思えずにいます。

死んで天国へ行くまで、こんな不安や恐れを抱えて、次々と試練に耐えていかなければならないのでしょうか？みんなで一緒に、「もう大丈夫。もう安心だね」と笑えるときを、死ぬまでただ待つしかないのでしょうか？

猫が、まん丸くなって、ぐっすり眠っているフカフカの座布団一枚ぶんでいいから、完全に安全な場所が欲しいです。そこでは、地震や津波や放射能に怯えることもない、傷つけたり、傷つけられたりすることもない、病気の不安も、死に怯えることもない、独りぼっちではない、そういう場所が、たとえ、たった一枚の座布団くらいの小さな空間でもいいからあったら・・・そんな風に思いながら、今、寝そべっていたところです。

「やっぱり、祈りだよ！」

誰かに言われたように感じました。

祈りは、たとえ一枚の座布団ぐらいの大きさでも、決して消えることのない「永遠の座布団」。祈りの中では、「ここなら大丈夫、完全に安全。神さまがともにいてくださる」ということが永遠に実現する筈ですよね。死んで天国に行くまで待たなくても、座布団一枚ぶんの天国を、この世から一枚、また一枚と増やして行ける筈です。誰にも取り去ることの出来ない「神さまの大丈夫」という永遠の座布団。

あなたにも、差し上げたいです。

「神さまの座布団」一枚！

いつものお母さん　　石原淳子

「お母さんだ！！　おかあさーん！」
復元後に対面してもらった時、
娘さん達が大きな声で泣いた。
お母さんも娘さん達のために、
きっとね、大きな声で泣いている。

一枚の画用紙に、安らかなほっこりした顔が明るく澄んだ水彩で描かれ、その横にメモのようにして手書きで添えられている言葉です。

描かれている顔は目を閉じていて、頬にほんのりまあるい紅をさし、ゆっくりと微笑んでいます。　実は、これは東日本大震災で亡くなられた方の柩の中のお顔なのです。

ＮＨＫスペシャル「最期の笑顔」というテレビ番組をみました。

遺体の復元という特殊技術、仕事というものを私は初めて身近にしたのですが、遺体の損傷を修復、復元し納棺する「おくりびと」を紹介する番組でした。

笹原留似子さんという４０歳の納棺師で、被災地岩手県沿岸の遺体安置所を訪ね、損傷した遺体を生前の写真を手掛かりにいつもの表情に戻し、納棺して見送るという仕事をボランティアとして続けてこられ、すでに赤ちゃんからお年寄りまで３００人以上を見送られたということです。

そうしたご自身の仕事を、心こめた絵日記として描き留めておられるのです。

家族でさえも見分けることのできない痛ましいさまの遺体を、いつものその人に戻していく作業は、遺族が愛する人の死に向き合うことができるための深い時間を、共に過ごすことになると語られます。

部屋にただ一人柩の中の遺体と向き合い、砂にまみれた髪を洗い、硬直をほぐし、脱脂綿を詰めるなどして、遺影をみつめて２時間も３時間もかけて生前の表情にもどしていく。特殊なファンデーションを自らの手の甲で温めてお化粧していく。特に笑い皺を探り当てるとほんとうにその人になるのだそうです。

作業する手の動きは、プロフエッショナルの確かな美しさと、云いようのない静かな優しさがあり、私はいずまいを正して画面に見入りました。

この度の被災地の遺体は損傷が激しく、家族といえども安置所での対面は受け入れ難いものだといいます。　小さなこどもにとっては如何ばかりかと思いやるのさえ心震えます。

遺体のさまが尋常ではないと云われても、私たちにはとても想像のかなわないことであるでしょう。

番組の中、幼い３人のこどもを残して逝った若いお母さんの見送りの挿話は、哀切きわまりないものでしたが、同時に心の温もりを覚えるものでした。

安置所から家に帰ってきたお母さんのお棺に、怖がって近寄ることのできなかったこども達は、笹原さんの手によるいつものお母さんに会えた時、初めてその顔にさわり、「おかあさーん！」と呼んで泣いたといいます。

こども達の「おかあさーん！」という声は、話をきく私の耳の底に心の底にもはっきりと聞こえて、私も泣きました。

こどもに会わせることができて、お別れができて、「おかあさん」と云えてほんとうによかったと語るお父さんの表情にも、深い安堵がうかがえました。

あの３月１１日から１年半が経ちます。

震災での死亡と行方不明の数は週に一度新聞に載ります。現在死亡者は１万５千８百人余り、行方不明者は２千８百人余りです。数字が動くのはこのところ２か月に３人ほどです。身元の判った方のお名前はその都度載ります。住所年齢とともに記されている氏名を見るとほっとする思いです。　幾百万と彫られた墓碑の前で、この名の上に指を添わせる人がいるからです。

本欄にも幾度も触れた作家辺見庸氏の痛烈な叫びがよみがえります。　「この巨大な被害を表わす言葉は数字以外にはないのか！」　「これは国難ではなく民族ではなく大和魂ではなくあくまでも『個』でなくてはならないのだ」

震災の詩「眼の海」の絶唱は、今も私の魂を激しく揺さぶり続けています。私たちは世界ではなく人類ではなくたった一人の私なのです。　この「私」に如何にしてしっかりと立つことができるか、そして如何にしてたった一人の「あなた」と共にいることができるかが、１年半経た今も問われていると思います。

笹原さんが手を添えたたった一人のいつものお母さんは、人間の尊厳を具えて、３人のこども達からおすそわけのようにして、私に悲しい平安をもたらしました。

「おかあさーん！」３人のこども達の声が、今、また、聞こえるのです。

いのちの言葉　9月

この水を飲む者はだれでもまた渇く。
しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。
わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。

（ヨハネ　４・１３-１４）

イエスがサマリアの女性にされたこの話は、福音の「真珠」とも呼べるものです。イエスは、ヤコブの井戸のそばで、水について話されます。水は、最もありふれたものですが、砂漠の生活をよく知っている人にとっては、最も必要で、命にかかわるものでした。ですから、イエスがいろいろ説明されなくても、サマリアの女性はすぐに、水の意味するところを理解できました。

泉の水は、人間の日常生活に必要ですが、イエスの言われる生きた水は、私たちの永遠の命に必要なものです。

砂漠では、大雨の後にだけ植物が育ちます。同様に、洗礼によって私たちの内にまかれた種も、神のみ言葉という水をかけられる時に初めて、芽を出します。植物は成長して枝葉を出し、木になったり、美しい花になったりします。こうなるのもすべて、み言葉という生きた水を受けたためです。み言葉は命を生み出し、その命を永遠に保つことができます。

この水を飲む者はだれでもまた渇く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。

イエスのみ言葉は、世であえぎ渇く私たち皆に向けられています。自分が霊的に渇いているのを自覚し、それに苦しむ人もいるでしょう。また、真の命を求めない人、皆に共通の大切な価値観さえ必要としない人もいるでしょう。

しかしイエスは、現代に生きるすべての人を招いておられます。私たちの問いに対する答え、私たちの望みを十分満たすものが見つけられる所を、示しておられるのです。

私たち皆が、み言葉という泉から水を汲み取り、イエスのメッセージに豊かに養われて生きるよう、招かれています。

そのためには、どうすればいいのでしょうか？

福音に基づいて生きる生活に立ち戻ることです。自分の生き方をイエスの言葉と照らし合わせ、彼のように考え、彼の心で愛するよう、努めることです。

私たちが福音を生きる瞬間は、生きた水を一滴ずつ、口に入れるようなものです。

隣人に対する愛の行いの一つひとつは、命の水を一口ずつ飲むようなものです。

この尊い生きた水には、特別な面があります。つまり、私たちがすべての人を愛そうと心を開くたびに、心の中に湧き出る水なのです。私たちが大小の愛の行いを通して、人々の渇きをいやせばいやすほど、私たちの心の中にある神の泉からは、水が豊かにあふれ出ます。

この水を飲む者はだれでもまた渇く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。

ですから、渇きの苦しみを味わわないためには、私たちの中におられる神ご自身から、生きた水を汲み取り、それを周りの人に与える必要があります。

隣人に対する何気ないひとことやほほえみ、また、ちょっとした手助けをすることで、私たちは自分が深く満たされ、大きな喜びが湧いてくるのを再び経験するでしょう。周りの人に対して、私たちがこのような行いを続けるなら、心の中にある平和と命の泉は、決して乾くことなく、そこからは一層豊かに水が湧き出るでしょう。

また、イエスが私たちに教えてくださったもう一つの秘訣は、いくら水を汲んでも決して乾くことのない井戸に似ています。つまり、二人三人がイエスの名によって集まり、彼と同じ愛をもって互いに愛し合う時に、イエスが私たちの真ん中にいてくださる(*1)ことです。その時私たちは、自由になり、一つに結ばれ、光で満たされるのを感じます。イエスが約束されたように、私たちの内から「生きた水が川となってあふれ出る」(*2)でしょう。永遠に渇きをいやす水の源は、私たちの真ん中におられるイエスご自身だからです。

キアラ・ルービック

（＊１）マタイ 18・20 参照
（＊２）ヨハネ７・38 参照

＊フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、２００８年３月１４日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、２００２年３月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

●お知らせ　いのちの言葉の集い

関東：
とき：　９月９日（日）１４：００から
ところ：　藤沢市労働会館にて

長崎：
とき：　９月２３日（日）
　　１４：００から１６：００
ところ：　長崎男子ﾌｫｺﾗｰﾚ・ｾﾝﾀｰ

み言葉を生きて

地域の文化サークルで仲良くしていたＡさんが、いつも私を車で送り迎えしてくれるのが少し重荷になってきたので、ある時お断りしたところ、彼女はひどく気を悪くして、サークルの人たちに私の悪口を言い広め始めました。その変わりように私は大きなショックを受け、「完全なのは神様だけで、私も含め、やはり人はみな、弱くて不完全な被造物なのだ」と痛感させられましたが、「Ａさんの良いところやお世話になったことも忘れないようにしよう」と思え、不思議と心に憎しみは湧いてきませんでした。毎回、主の祈りを唱えてからサークルに出かけるようにし、「あなたはすべてをご存知です」と、神様にこの状況をゆだねるようにしました。さまざまな人から色々言われても弁解は避け、Ａさんにも挨拶だけは続けるようにしました。数か月たった今、サークル内での噂話が自然と消えていることに気がつきます。いつかＡさんとも信頼関係を取り戻せる日が来ることを信じて、彼女のために祈り続けたいと思っています。

連絡先
フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：フォコラーレで検索
http://focolare.world.coocan.jp/

十字架の聖ヨハネ　こぼれ話（62）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

ごほごほ咳をしながら

十字架のヨハネ修士の咳は、喘息ではなく、彼が用いた教育的手段でした。それを見た人、特にそれを聞いた人がそれについて物語るのがよいでしょう。咳は、見るより聞くものですから。

すばらしい師であり仲間であった十字架のヨハネについて、聖アンナのヨハネがこれについて物語ってくれます。「修室から出て、どこかに行く時、いつも咳をしながら歩いていました。何人かの修道士たちが話をしていたり、言われたこととは別のことをしている場合、彼らの目の前に行く前に、やめるように、意図的に咳をしているのだと言いました。なぜなら、彼らによくないことをしていることに気づかせ、やめさせ、当惑させ、非を改めさせるには、咳だけで十分だからということでした」。とはいえ、十字架のヨハネは、あれこれの違反を取り締まる「警察」のような教育システムや態度を持ち合わせませんでした。少しぶしつけな表現となりますが、この場合、彼は、ネズミを驚かすために首に鈴のついた猫であったと言えるでしょう。こうしてネズミの国の仲間の考えは、「教育的に」すばらしい結果をもたしたのです。

少し失礼な脱線をした後、十字架のヨハネが、なぜごほごほ咳をしながら歩いたかについて聖アンナのヨハネの語っていることにもどりましょう。「(十字架のヨハネ修父は、) ”regis est multa dissimulare et pauca castigare”(多く見逃し、少し罰するのが王にふさわしい)と言っていました。すべてのことを叱責すべきでも、すべてのことを見逃すべきでもないということです。修道士は、院長が彼の犯した過ちを見て、それがどんなに小さなことであろうと、時宜にあった叱責や、愛と賢明さをもって、彼を見逃さないならば、彼の過ちを見、気づいたにせよ、院長は、その過ちを見ず、ぼんやりとして、彼を見逃したのだと理解することでしょう」。

（続く）

跣足カルメル修道会HP（International）

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< **Communications**（時事通信）>>

跣足跣足カルメル会 東アジア オセアニア長上会議
「小教区司牧とカルメルのカリスマ」

バリーインドネシア発（２０１２年８月２０日）

フィリピン、オーストラリア、韓国、シンガポール、日本、インドネシアの長上（管区長）たちは、インドネシアのバリ島で開催された東アジア オセアニア地区の会議において、「小教区司牧とカルメルのカリスマ」について話し合いました。

この長上会議は、デンパサールで７月３０日から８月３日まで開かれ、各管区の長上たちの他に、東アジア オセアニア地域の総長顧問であるピーター チュング神父をはじめ、この地区のカルメル会が司牧する小教区の、かなりの数の担当者たちも参加しました。

開会式のミサはピーター チュング神父の司式で捧げられ、インドネシアの管区長フェリックス・エバブンカル神父が歓迎の挨拶を述べました。その後会議では三つの内容について討議されました。

まず最初に、各管区の現状と司牧の概要報告があり、その後、教皇庁立聖パウロ・ジョグジャカルタ神学校の教授で教会学の専門家であるギトラトモ神父が、”今日の小教区司牧の再考”の必要性について講演をし、この課題に関する考察とグループ討議を指導しました。

その結果、参加者はカルメル会が司牧する小教区についての重要な提案を三点に区分しました。 １．共同生活　　２．念祷の時間　　３．聖母崇敬と聖人祝祭

次に、講話や黙想会や出版を通じてのカルメルの霊性や養成について討議し、最後に、貧しい人々の援助やエキュメニカルな対話や諸宗教対話などによる社会的司牧の強化について話し合いました。特に、カルメル会ファミリーの中にいる女子カルメルやカルメル在世会や信徒や他のグループとの協働の重要性が強調されました。

『わがテレーズ　愛の成長』
重版のお知らせ

マリー・エウジェンヌ師が尊者に挙げられたのを機に

絶版となっていました『わがテレーズ』が重版されました！

マリー・エウジェンヌ 著
伊従　信子　訳
サンパウロ　出版　　１７３　ページ

現代社会は　神に飢え渇くものにとってはまさに水も食べ物もない荒野である。
それでも　神に向かう旅路を歩み続けなければならないとするならば、
どうしたらよいのだろう。
本書は、この重要な問いに応えてくれる。
「自分が無に過ぎないことを認めて、幼子のように、神のみ腕に自分を委ねさえすれば足りる」 神への単純なまなざしを生きる、これならば信徒にも可能なことである。

～森　一弘　司教～
表紙のとびらより

少しの時間、いのりのみ言葉に耳をかたむけてみませんか

新刊案内

わたしは神をみたい いのりの道をゆく
マリー・エウジェンヌ神父とともに

伊従信子編・著

師は、神と親しく生きるように神が多くの人々を呼んでおられること、そして、その人々を神との一致にまで導くように、神が自分を召されたことを自覚していました。ですから、師はその生涯の終わりまで、社会で日々の生活を営むすべてのキリスト信者が聖性に召されていることを強調し、聖性への道を提供する務めを使徒職とする人々の養成を熱く望んでいました。
(「はじめに」より)

ISBN978-4-88216-339-8 C0195
268 281頁 定価**630**円(税込)

▼▼▼こちらもおすすめ！▼▼▼

神と親しく生きる いのりの道
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに

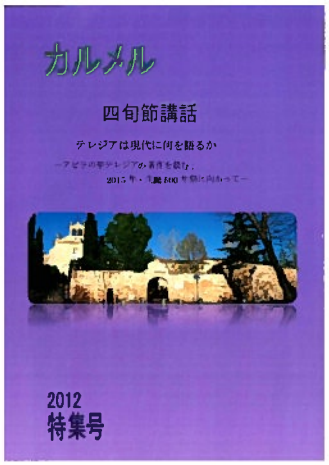
R. ドグレール / J. ギシャール著
伊従信子訳

現代の狂騒の中で、大切な何かを見失っていないだろうか……真理、善、美、生きる意味、神との関わりを捜し求めている人たちへ送るメッセージ。

ISBN978-4-88216-307-7 C0195
246 207頁 定価**525**円(税込)

聖母の騎士社 〒850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340
ご注文・お問い合わせ先

「カルメル」
今日の霊性・秋号
特集号・四旬節講話



2012 秋 No.346

カルメル 2012 特集号

「テレジアは現代に何を語るか」

● 目次 ●

テレジアの涙　新井延和　2
『完徳の道』に見る「祈りと生活」　九里彰　10
アビラの聖テレジア(アヴィラの聖テレサ)の『創立史』にみる信仰の歩み　松田浩一　22
神の住いであるわたしたち――『霊魂の城』に聴きながら　中川博道　35
三位一体の神との交わりの崇高な神秘体験、地上に苦しむキリストの神秘体との連帯　渡辺幹夫　46

◎ 目次 ◎

《今年の特集　イエスの聖テレジア(3)》
現代における「従順」の意味(3)――聖テレジアの『創立史』を中心にして　九里彰　3
アビラのテレサとエディット・シュタインの霊的絆(1)――今、ここで、聖女が語るもの　須沢かおり　9
カルメルにおいて「新しい福音宣教」を考える(1)　中川博道　16
聖性への招き　十字架の聖ヨハネに導かれて　変容までの長い道のり(8)　マリー・エウジェンヌ　編・訳　伊藤信子　23
アルジェリアの白い殉教者たち(後編)　高橋重幸　30
僕はもう怖がりたくない　森みさ　37
砂漠の修道院に入る(2)　奥村一郎　43

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。（カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等）定価は、一冊４６０円です。

● 送付ご希望の方は、６００円【内訳　４６０円（＋送料１４０円）】を下記へお振込み下さい。

● まとめてご購入希望の方は、年会費（年５冊：春夏秋冬号・特集号【４６０円×５＝２，３００円】＋ 送料【７００円】計 ３，０００円）を下記へお振込み下さい。

郵便振替：００１９０－４－１９５４５７　跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。
ＴＥＬ（０３）５７０６－８３５６

カルメル会の企画案内

上野毛霊性センター　～’１３年３月

黙想企画　＊＊　聖テレジア修道院（黙想）　＊＊

１．一泊聖書深読　指導：新井延和神父

（毎回金曜日夕食～土曜日１６時）

２０１２年

１１月３０日～１２月　１日

２０１３年

３月　１日～　３月　２日

２．奉献生活者の為の黙想会

１２月２７日（木）１８時～２０１３年１月５日（土）　福田正範神父

３．木曜黙想会(毎回木曜日１０時～１６時)

年間テーマ　「信仰」

１１月２９日　「信仰とは？」　中川博道神父

２０１３年度　年間テーマ　「信仰と宣教」

１月１０日　古川利雅神父

３月　７日　中川博道神父

４．金曜黙想会 カルメルの聖人（毎回金曜日１０時～１６時）

１２月１４日　「十字架の聖ヨハネ」　中川博道神父

２０１３年

２月２２日　「カルメルの原始会則の霊性」　渡辺幹夫神父

５．青年黙想会(男女)　福田正範神父、カルメル会士

１１月２３日（金）～１１月２５日（日）　「信仰に生きる」

６．一泊黙想会　（１８時～翌日１６時）　福田正範神父

１０月１日（月）～１０月２日（火）　「幼きイエスの聖テレジアとともに」

７．祭日のミサに参加するために

【クリスマス】　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

２０１２年１２月２４日(月・振休)～２５日(火)《講話なし、夕食なし》

８．特別黙想会　　伊従信子（ノートル・ド・ヴィ）

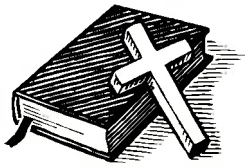
初日の夕食は済ませてご参加下さい。

１０月１９日（金）２０時～２１日（日）１６時　　信仰の年にあたって（II）

９．聖週間前の黙想会（２０１３年）　　福田正範神父

２０１３年

３月１７日（日）１８時～３月１９日（火）１６時　過ぎ越しの子羊・キリスト



電話でのお問い合わせは午前９時から午後４時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Ｅメールでお願い致します（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院（黙想）
TEL　03－5706－7355
FAX　03－3704－1764
e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

特別黙想会　≪わたしは神をみたい≫

信じない者ではなく
信じる者になりなさい

２０１２年１０月１９日（金）20 時～２１日（日）15 時

「信仰年」を迎えるにあたり、

日々の生活のなかで復活されたキリストと出会うために

しばらく神のみ前に　静かなひとときを過ごしてみませんか？

わたしを信じる者は

その人のうちから

生きた水が

川となって　流れ出るようになる。

ヨハネ７・３８

- 指　導：　伊従　信子　（ノートルダム･ド･ヴィ会員）
- 持参品：　聖書、『いのりの道』（聖母の騎士社、聖母文庫）
- 参加費：　￥１２０００
- 場　所：　カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
  158 - 0093　東京都世田谷区上野毛２-14-25　TEL 03-5706-7355
- お申込み：ＦＡＸ：03－3704-1764　Ｅメール：mokusou@carmel-monastery.jp
  または、ハガキにてお申込み下さい。

信仰に生きる

カトリック教会は 2012 年 10月 11日から 2013年 11月 24 日まで信仰年を迎えています。

この機会に同世代の青年男女たち、またカルメル会士と共に「信仰」について理解を深め、今までの歩みを振り返り、今後の生き方を見つめてみませんか。

ANNO DELLA FEDE 2012 2013

日　時　：　１１月２３日（金）１５時　～　２５日（日）１６時
場　所　：　カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
対　象　：　高校生以上の青年男女（３５歳まで）
定　員　：　２０名
費　用　：　一般　１０，０００円　　学生　７，０００円
締　切　：　１１月１６日（金）＜必着＞
指　導　：　福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・ＦＡＸ・E-mail の何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093　世田谷区上野毛2－14－25
カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
電　話：　０３（５７０６）７３５５
ＦＡＸ：　０３（３７０４）１７６４
E-mail：　mokusou@carmel-monastery.jp

聖書深読黙想会

<一泊>

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きることです。　皆様のご参加をお待ちしています。

＊＊＊＊＊

＊　日時：2012 年 11 月 30 日（金）18 時～12 月 1 日（土）16 時

（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意下さい）

＊　場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

＊　指導：新井延和師（カルメル会司祭）

＊　会費：￥７０００

＊　持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著　￥１０５０）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。

お問合せ・お申込は、TEL.　FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093　世田谷区上野毛　2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
Tel.０３－５７０６－７３５５
Fax.０３－３７０４－１７６４

講座のご案内

■場所： カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当： 中川博道 （カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください

カルメルの霊性に親しむ

朝のクラス・火曜日 ≪10:30～12:00≫	夜のクラス・金曜日 ≪19:15～20:45≫
10 月 16 日	10 月 19 日
11 月 20 日	11 月 16 日
12 月 11 日	12 月 11 日（火曜日）
2013 年 2 月 26 日	2013 年 3 月 1 日

キリストとの親しさ

朝のクラス・火曜日 ≪10:30～12:00≫	夜のクラス・金曜日 ≪19:15～20:45≫
10 月 30 日	11 月 2 日
12 月 4 日	12 月 4 日（火曜日）
2013 年 2 月 12 日	2013 年 2 月 15 日
3 月 12 日	3 月 15 日

キリスト教の基本を学ぶ

―洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に―

いずれも 金曜日

朝のクラス≪10:30～12:00≫ 夜のクラス≪19:30～21:00≫

10	10 月 12 日	「福音が語るイエス・キリスト」
11	10 月 26 日	「イエス・キリストの自己理解」
12	11 月 9 日	「キリストに近づく」
13	11 月 30 日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(1)
14	12 月 7 日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(2)
15	12 月 21 日	「キリストと共に歩む道」(1)
16	1 月 11 日	「キリストと共に歩む道」(2)

お問合せ:carmel-reisei@hotmail.co.jp

２０１２年　　黙　想　会　案　内　（宇治カルメル会）

一般のための黙想　１泊２日（午後5時～午後4時）

11月24日(土）～25日(日）黙示録　　新井延和神父

聖書深読黙想会　１日（午前10時～午後4時）

10月 6日(土）新井延和神父

12月22日(土）新井延和神父

水曜の黙想（午前10時～午後4時）

10月17日(水）終生おとめ聖マリア　　松田浩一神父

11月14日(水）キリストの第二の到来　今泉健神父

12月12日(水）受肉　　新井延和神父

待降節の黙想（午後５時～午後４時）

12月1日(土）～12月2日（日）今泉健神父 肉となったみことば

カルメル青年黙想会（午後５時～午後４時）

11月10日(土）～11月11日(日）松田浩一神父 今泉健神父　観想者聖マリアに従う

一般のためのカルメルの霊性入門　（午後５時～午後４時）

10月14日（日）～10月15日（月）松田浩一神父

イエスの聖テレサの霊魂の城の導入

奉献生活者の黙想（午後５時～午前９時）

12月27日(木)～1月 5日(土)新井延和神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】チェックイン午後４時以降可、チェックアウト午前１１時

12月24日(月）～12月25日（火）[講話なし、各食事つき]

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会,個人黙想も歓迎いたします。－

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Ｅメールで お名前と連絡先を御記入の上、 お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前９時～午後５時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016 ,　Fax　0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

講座：テレジアは現代に何を語るか

＜アビラの聖テレジアの生誕 500 年祭に向けて、彼女の著作を読む＞

場所：京都河原町カテドラル横の教区事務局６F ホール

日時：下記の各月日の午後２時半より４時まで　　入場無料

5 月 19 日（土）　新井延和　神父

『自叙伝』による「テレジアの涙」

6 月 16 日（土）　松田浩一　神父

『創立史』にみる信仰の歩み

9 月 22 日（土）　九里　彰　神父

『完徳の道』に見る「祈りと生活」

10 月 20 日（土）中川博道　神父

「神の住まいであるわたしたち」

『霊魂の城』を聴きながら

11 月 17 日（土）渡辺幹夫　神父

「三位一体の神との交わりの崇高な神秘体験、

地上に苦しむキリストの神秘体との連帯」

『小品集』による

男子跣足カルメル修道会 宇治修道院へのお問い合わせ

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

TEL　0774-32-7456

FAX　0774-32-7457

teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人（働いている人）のための霊的同伴』
―日常のキリスト教霊性を求めて―

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴（スピリチュアル・コーチング）**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

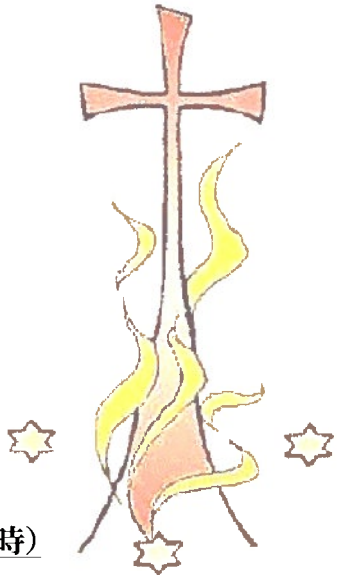
- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点（**霊的理解**）を促進しますので、この静かな一時の中で短い**個別同伴**（一人 30 分）を行います。
- メソードの一つとして**スピリチュアル・コーチング**を適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行われるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】　6 人

【開催日】

① 2012年　1月13日（金）～14日（土）
② 2月10日（金）～11日（土）
③ 3月16日（金）～17日（土）
④ 4月13日（金）～14日（土）
⑤ 6月 8日（金）～ 9日（土）
⑥ 7月13日（金）～14日（土）
⑦ 9月 7日（金）～ 8日（土）
⑧ 10月12日（金）～13日（土）
⑨ 11月 9日（金）～10日（土）
⑩ 2013年　1月25日（金）～26日（土）
⑪ 2月 8日（金）～ 9日（土）
⑫ 3月 8日（金）～ 9日（土）

（毎回金曜日　20 時（夕食なし）～土曜日 15 時）



【参加費】　各回 5，500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父（カルメル会士）

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院（黙想）へ FAX、はがき、E メールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39－12
カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）
Tel 0774－32－7016、Fax 0774－32－7457
E-Mail：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

一般のためのカルメルの霊性入門

場所　：カルメル会聖テレジア修道院＜黙想＞（京都）

日時　：10 月 14 日（日）PM5:00～

10 月 15 日（月）PM4:00 まで

テーマ：イエスの聖テレサ（テレジア）の

『霊魂の城』の導入

参加者：カルメル会の霊性に興味のある人

持参　：イエズスの聖テレジア著『霊魂の城』ドンボスコ社

または、アビラの聖テレサ『霊魂の城』聖母文庫

筆記用具、宿泊に必要な物。

指導　：松田浩一　神父（カルメル会士）

＊宿泊できない方は、10 月 15 日（月）のみ参加もできます。

男子跣足カルメル修道会 宇治修道院へのお問い合わせ

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

TEL 0774-32-7456

FAX 0774-32-7457

teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

カルメル青年黙想会

テーマ：観想者聖マリアに従う

ネット社会の中で

対　象：青年男女３０歳まで
場　所：宇治聖テレジア修道院（黙想）
指　導：松田 浩一神父、今泉 健神父
日　時：2012 年 11 月 10 日（土）受付開始 16 時～11 日（日）17 時
連絡先：カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）
〒611－0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
Tel　0774－32－7016
Fax　0774－32－7457
Email: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」
～都会の中の一日静修～（２０１２）

「イエスにお目にかかりたいのです」

—今の時代から「イエスに会いたい」と問われているわたしたち—

「イエスにお目にかかりたいのです」（ヨハネ 12-21）。この願いは、（中略）大聖年を過ごした私たちの耳にも霊的にこだましています。二千年前の巡礼者のように、今日の人々は今日の信仰者に、たとえ意識的にでなくとも、キリストについて「語ってほしい」だけではなく、ある意味でキリストに「会いたい」と願っています。教会の務めは、歴史のあらゆる時代にキリストの光を放つことであり、今日も、新しい千年期の人々の前に、キリストのみ顔の光の輝かせることではないでしょうか。

しかし、わたしたちがまずキリストのみ顔を観想しない限り、わたしたちのあかしは耐え難いほど貧弱なものであるに違いありません。　（教皇ヨハネパウロ二世使徒的書簡「新千年期の初めに」p. 22）

第１回	１月9日（月・祝）	キリストの御顔の観想と宣教(全体の導入)	中川博道神父　（上野毛修道院）
第2回	2月　4日（土）	苦しみとイエスに出あうこと	福田正範神父　（上野毛修道院）
第3回	3月31日（土）	イエスの聖テレジアにおけるキリストの福音	松田浩一神父　（宇治修道院）
第4回	4月14日（土）	復活したキリスト：復活のラウレンシオ	今泉健神父　（宇治修道院）
第5回	5月26日（土）	聖霊が働く	新井延和神父　（宇治修道院）
第6回	6月16日（土）	三位一体のエリザベットと宣教	九里彰神父　（本部修道院）
第7回	7月　7日（土）	聖体と宣教：ヘルマン・コーヘン	古川利雅神父　（上野毛修道院）
第8回	9月22日（土・祝）	マリー・エウジェン又師、人々を神への親しさへと導く	Sr.伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）
第9回	１０月20日（土）	布教の保護者、幼きイエスの聖テレジア	Sr.パウリナ（宣教カルメル修院）
第１０回	１１月23日(金・祝)	十字架の聖ヨハネと宣教	九里彰神父　（本部修道院）

＊　時間　AM10:00～PM4：00
＊　場所　カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分　＊聖テレジア幼稚園隣接
＊　参加費　1,000円
＊　持ってくるもの　聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
＊　定員　約30名
＊　プログラム　　１０：００～　祈り・導入・黙想
　　１０：３０～　講話（1）
　　黙想・赦しの秘跡または面接
　　１１：５０～　昼の祈り・お告げの祈り
　　１２：１５～　昼食
　　１２：５０～　黙想・赦しの秘跡または面接
　　１３：３０～　講話（2）
　　１４：４５～　ミサ
　　１５：３０～　茶話会・分かち合い
　　１６：００～　終了予定

☞　申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名･住所・TEL、（所属教会）を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆　名古屋カルメル霊性センター
〒456－0062　名古屋市熱田区大宝4－5－17　カルメル会日比野修道院　FAX 052-671-1825
一日静修連絡係　〒465－0058　名古屋市名東区貴船3－2115　小林　厚･晃子
TEL・FAX 052-701-3685

２０１２年度名古屋聖書深読会

第２回　１０月２７日（土）　　新井延和神父（宇治修道院）

○　時間　午前１０時～午後４時

○　場所　カトリック日比野教会
　　地下鉄名城線日比野下車、徒歩約５分　＊聖テレジア幼稚園隣接

○　参加費　￥１０００

○　持ち物　聖書・筆記用具・ノート・昼食等

＊　毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

＊　申し込みは、開催日の３日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

＊　対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞　申し込み先　　名古屋カルメル霊性センター
〒456-0062　名古屋市熱田区大宝４－５－１７
カルメル会日比野修道院
FAX０５２－６７１－１８２５
☆連絡係
〒465-0058　名古屋市名東区貴船３－２１１５
小　林　　厚・晃　子
TEL/FAX０５２－７０１－３６８５

土曜フレックスタイム静修

毎月第3土曜日 13:30 ～ 16:00 の予定で行います。
御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき（来る時間も帰る時間も自由）、
霊的にだけではなく、心身ともにリフレッシュできる時間として御利用下さい。

日時　毎月第3土曜日　13:00 ～ 16:00
場所　三馬教会（石川県金沢市）
プログラム

13:30 ～ 15min.　聖書朗読、短い講話
14:30 ～ 15min.　ベネディクション、聖体顕示
15:30 ～ 15min.　聖体拝領
16:00 ～　サルヴェレジナ、終了
各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です。

霊性センター

毎月第2日曜日 14:00 ～ 15:00 カルメル霊性センターの講話があります。
日曜日、午後の一時、心の耳を澄ませてみましょう。

日時　毎月第2日曜日
場所　三馬教会（石川県金沢市）
プログラム
14:00 ～ 講話（講師：カルメル会士）
15:00 ～ ミサ

カルメル霊性センター
〒 921-8162
金沢市三馬3丁目324番地
カルメル会　三馬修道院
三上　和久神父迄
Tel. 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

１　東　京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。
２　宇　治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち２箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

１　朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くＢ５用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：６ヶ月 18,900 円（４、７、10、１月に納入）　継続の場合は１6,900 円

講師：九里彰師（奇数月）　新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

２　ミニ深読

グループで２、３時間かけて聖書深読法の一部分を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはＳｒパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局　Ｓｒパウリーナまでご連絡下さい。

◎　聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
所長：奥村一郎神父　　事務局長：新井延和神父　　連絡先：Ｓｒパウリーナ
ＴＥＬ　0774-32-7016　　ＦＡＸ　0774-38-2543
Ｅメール　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内

心のいほり　内観黙想センター
真命山　霊性交流センター
リーゼンフーパー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
マリアの御心会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会
ＣＷＣ（キリスト者婦人の集い）

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、 開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。 電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572－0001 大阪府寝屋川市成田東町3－27「心のいほり 内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
http://www.com-unity.co.jp/naikan (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2012年予定

Ｋ４ 10/12（金）-10/18（木）東京・小金井・聖霊会
Ｎ４ 10/28（日）-11/3（土）滋賀唐崎・ノートルダム
Ｋ５ 12/01（土）-12/07（金）東京・小金井・聖霊会

2013年予定

Ｋ１ 1/26（土）-2/1（金）東京・小金井・聖霊会
Ｍ１ 2/24（日）-3/2（土）宝塚売布・女子御受難会
Ｎ１ 3/6（水）-3/12（火）滋賀唐崎・ノートルダム
Ｋ２ 4/6（土）-4/12（金）東京・小金井・聖霊会
Ｓ１ 4/14（日）-4/20（土）千葉白子・十字架 イエスベネデイクト会
Ｎ２ 5/2（木）-5/8（水）滋賀唐崎・ノートルダム
Ｋ３ 6/7（金）-6/9（日）東京・小金井・聖霊会（研修会 ２泊３日）
Ｍ２ 6/23（日）-6/29（土）宝塚売布・女子御受難会
Ｔ１ 7/22（月）-7/28（日）兵庫西宮・女子トラピスチヌ
Ｋ４ 8/24（土）-8/30（金）東京・小金井・聖霊会

真命山　2012年 － 祈りの集いのご案内

真命山の霊性

自然　神はすべてを造り人の手にゆだねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで　祈り

静けさ　沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を分かつ　交わり

御聖体、愛の秘跡

１月１２日	愛の秘蹟である御聖体
２月　９日	信仰の神秘
３月　８日	「過越」の子羊
４月１２日	教会を生み出す御聖体
５月１０日	御聖体とおとめマリア
６月１４日	キリストによって、キリストとともに、キリストの内に
７月１２日	御聖体に生かされて生きる
８月	休み
９月１３日	御聖体の典礼と美
１０月１１日	御聖体と福音の宣教
１１月　８日	御聖体礼拝
１２月１３日	終末の宴

指導者
フランコ・ソットコルノラ神父
（真命山院長）
ダニエレ　サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア　デ・ジョウルジ

申し込み先
865－0133
熊本県玉名郡和水町1391－7
真命山諸宗教対話・霊性交流センター
TEL　0968－85－3100
Fax　0968－85－3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

リーゼンフーバー講座・集いの案内　２０１２年

●キリスト教入門講座
金曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座
毎月第1・第3・第5火曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー　以下の土曜日、
9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP（文末）を見て下さい。
冬学期: 近代後半・現代の霊性と思想 (18世紀－21世紀初頭)
10/06、10/13、10/20、11/10、11/17、12/01、12/08、01/05、01/12、01/19、01/26、02/02、02/09

●ミサ
水曜日 17時10分－18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、10月31日、1月2日は休み。

●黙想
・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分－20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日は休み。8月14日、28日はクルトゥルハイム聖堂。
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分－12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月7日は休み。
・水曜日 18時－18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、10月31日、1月2日は休み。

●祈りの集い
・下記の土曜日 13時30分－16時 上智大学内SJハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
10月6日、11月10日、12月1日、2013年1月5日、2月2日、3月2日
・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分－16時50分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂

●黙想会
11月24日(土)10時－25日(日)14時(東村山)、
2013年2月16日(土)10時－17日(日)14時(東村山)。1泊6600円程度。
[関西] 10月27日(土)13時30分－28日(日)15時(宝塚)

●坐禅会
・月曜日　17時20分－20時10分
・木曜日　18時－20時30分
　上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。但し祝日、4月5日は休み。3回坐り、間に講話。

●坐禅接心
秋川神冥窟。1泊2400円(＋暖房費)程度。
10月31日(水)20時30分－11月4日(日)10時

●アガペ会
下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時－18時)。上智大学内SJハウス第5会議室
2013年1月26日(土)
2012年10月21日(日)の集いは13時から。岐部ホール4階404(予定)

●クリスマス
クリスマス会：12月15日(土)16時－20時30分。岐部ホール4階404(予定)。要申し込み。
クリスマスのミサ：12月23日(日)14時－上智大学内クルトゥルハイム聖堂(80人限定)。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教
入門講座　2012年
日時　毎週金曜日
　　18時45分～20時30分

10/05：人間としてのイエス― 新しい人間像の基礎づけ
10/12：御子としてのイエス― イエスの神との関係
10/19：父と子と聖霊― 神の生命に与る
10/26：信仰の決断― 支えられて生きる
11/02：○休み
11/09：ミサ祭儀― 神への奉仕と生活の糧
11/16：自己実現と神の意志― 生き方の規範
11/24-25：●黙想会(東村山)
11/30：人間の弱さ― 罪とは何か
12/07：恵みとゆるし― 神の憐れみを受ける
12/14：愛の心― キリスト教の本質
12/15：◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4階404-予定-)
12/21：隣人愛― 他人の内にイエスに出会う
12/23：◆クリスマスのミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)
12/28, 1/4○休み
01/11：希望を持つ勇気― 未来に向かって歩む
01/18：霊の動き― 福音による生き方
01/25：秘跡と教会生活― 毎日を養う信仰
02/01：神の言葉― 神との日常的な対話と黙想の仕方
02/08：結婚と独身― 愛の道

リーゼンフーバー神父キリスト教
理解講座　2012年
日時　　第1・3・5火曜日
　　18時45分～20時30分

[イエス]
10/02：根本たる愛―― 律法の完成と克服
10/16：受難による救い―― イエスの救済的役割
10/30：死からの命―― 復活の認識・経験・理解
11/06：キリストはだれか―― キリスト理解の発展
11/20：御子の受肉―― 神の子と人の子
11/24-25：●黙想会(東村山)
[聖霊]
12/04：神の内的現存―― 人間における聖霊の働き
12/15：◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4階404-予定-)
12/18：三位一体の神―― 救いの構造から神内の存在へ
12/23：◆ミサ(14時、クルトゥルハイム2階、80人限定)
[教会]
01/15：信仰者の共同体―― 教会の本質
01/29：救いのしるしと実現―― 秘跡の意味
02/05：憐れみと愛の祝い―― 罪のゆるしとミサ
02/16-17：●黙想会(東村山)
02/19：「聖徒の交わり」―― 世界の只中のキリスト
03/05：人間と世界の究極の未来―― 終末の約束

《場所・お問い合わせ》
聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール　TEL　03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父
〒102－8571　千代田区紀尾井町7－1
上智大学SJハウス

電話　03－3238－5124(直通)　－5111(伝言)
Fax　03－3238－5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの霊性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2012年
10月27日（土）

講話　伊従信子

午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費　200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177－0044
練馬区上石神井4－32－35

TEL（03）・3594・2247
FAX（03）・3594・2254
E-mail　notredamedevic.japan@gmail.com
ホームページ
http://www.ndv-jp.org/

カルメル会の霊性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ（いのちの聖母会）は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉献を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

マリアの御心会

主日の福音の
分かち合い

2012年　9月28日(金)10月26日(金)
11月30日(金)12月21日(金)

午前 10:30～12:00
福音を読んで、分かち合い、祈りましょう。

どなたでも、ご参加ください。

主催：マリアの御心会
ＪＲ「信濃町」下車徒歩３分
問い合わせと申し込み　TEL 03-3351-0297

働く人のための
祈りの集い
みことばの分ち合い

時間　19:00～20:30（第２水曜日）

2012年９月１２日　１０月１０日
１１月１４日　１２月１２日

主催：マリアの御心会
ＪＲ「信濃町」下車徒歩３分
お問い合わせ　申し込み
TEL 03-3351-0297

軽食あり、自由献金

「来て、見なさい」

「イエスとの関わり」
―主よ、私の道はどこに
―祈りと分かち合いを
通して探して行きましょう

テーマ：空の鳥をよく見なさい
日時：１０月１４日(日)　１１月１１日(日)
１２月９日(日)　14:00～16:00
対象：自分の道を探している
35 歳までの独身女性

場所：マリアの御心会　(JR 信濃町下車３分)
会費：各回 500 円
担当：マリアの御心会会員
お問い合わせ・申し込み　TEL03-3351-0297

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所 在 地:　〒520-0106　滋賀県 大津市 唐崎　1丁目　3－1
Tel:　077-579-7580　Fax:　077-579-3804
E-メール:　karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交　通:　JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。 琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日　程:

A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。
④10月 27 日 (土) ～ 11月 4日 (日)
⑤12月27日 (木) ～13年1月 4日 (金)

B. 祈りの体験:週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)
【神との親しさの中で日常を生きるために】
⑥ 9月 21日(金) ～ 9月23日(日)
⑦ 11月23日 (金) ～11月25日 (日)

◎ 対　象: 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者:　司祭、 ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み:　1) 名前　2) 住所　3) 電話番号　4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子　へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。

◎ その他: 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

信 じ ま す
わたしをお助けください
力のないわたし

2012年度　召命黙想会

日時: **１０　月１３日**（土）15:00～
１４日（日）15:30まで

場所　:　ノートルダム唐崎修道院
（JR京都駅から30分）

指導　:　山内 十束 神父（御受難会）

対象　:　独身女性信徒

費用　:　2,000円

締切　:　１０　月　７　日（日）

＜申込み・問合せ＞

〒520－0106　滋賀県大津市唐崎 1-3-1
ノートルダム教育修道女会
Sr. 桂川
Tel 077-579-2884　Fax 077-579-3804
Email karainorind92@mbe.nifty.com

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

お申込みは、各集いの連絡先に記されている人に、電話かFaxでお願いします。

【連絡先電話・Fax】

若山美知子	Tel ： 03-5802-3844	Fax ： 同左
高谷弘子	Tel ： 099-255-2862	
大倉本子	Tel ： 078-811-2706	
伊藤律子	Tel ： 090-4478-0088	
Sr.名嘉山	Tel ： 098-945-8649	Fax ： 945-8720
Sr.田中	Tel ： 082-239-0034	Fax ： 239-0036
Sr.藤岡	Tel ： 084-921-6266	Fax ： 928-7962
鎌田治子	Tel ： 0467-31-9835	

【注意】補充情報が随時ホームページ「スケジュール」コーナーに掲載されます。
URL ： http://sadhana.jesuits.or.jp/

●サダナ I（17:30～16:00）

＊体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす冥想会。

	場所	指導	連絡先
2012年10月5日（金）－10月8日（月）	宝塚女子御受難会	ラフオント	大倉本子
10月5日（金）－10月8日(月)	盛岡シャルトル聖パウロ会	楠栗とマルコ	伊藤律子
11月1日(木) － 11月4日(日)	東村山三位一体会	ラフオント	若山美知子
2013年1月11日(金) － 1月14日(月)	東村山三位一体会	楠栗	若山美知子

●サダナ II（17:30～16:00）

＊サダナ I をいっそう深める。身体・感情・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

	場所	指導	連絡先
2013年8月8日(金)－2月12日(火)	援助マリア会福山修道院	ラフォント	Sr.藤岡

●自己を知る（9:30～17:00）

＊生き生きと喜びのある人生を送るため、またより良い人間関係を育むためのワークショップ

	場所	指導	連絡先
2013年3月9・10日＋3月16・17日	町田祈り研修の家	植栗	若山美知子

●日帰りサダナ（サダナ・フォローアップ）（9:30～17:00）（指導：植栗）

＊サダナ I やサダナ II を体験済みの方のために。“継続的な進歩”をめざす。

	場所	連絡先
2012年10月28日(日)	市谷援助修道会研修室	若山美知子
11月20日(火)	鎌倉聖母訪問会本部	鎌田治子
2013年2月3日(日)	市谷援助修道会研修室	若山美知子
2月　未定	鎌倉聖母訪問会本部	鎌田治子

慈しみ深き会

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
－観想の祈りへの道－

日時：１１月２１日（水）「霊魂の城」第三の住居 第二章
　　１２月１９日（水）　講話後ミサ
　　１４：００～１６：００
場所：イグナチオ教会信徒会館３Ｆアルペホール
　　１２月のみマリア聖堂（ミサ有り）
アビラの聖テレジアの「霊魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります
＊参加費無料（献金歓迎）
＊問い合わせ先：042－473－6287　篠原

九里彰神父（カルメル会日本管区長）

CWC（キリスト者婦人の集い）

カルメルの霊性に学ぶ

『完徳の道』

日時：１１月２０日（火）第２５章、第２６章
　　１２月１８日（火）第２７章、ミサ
　　１０：３０～１２：００
場所：真生会館

※各黙想会内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

カルメル会出版物のご案内

「神のさすらい人」
アビラの聖テレサ
マルセル・オクレール著
福岡カルメル会訳

「創立史」
イエズスの聖テレジア著

「霊魂の城」
イエズスの聖テレジア著

「カルメル山登攀」
十字架の聖ヨハネ著
奥村一郎　訳

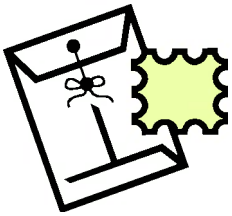
●お問合せは下記まで

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛**2-14-25**
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 03-5706-7355　FAX 03-3704-1764
E-mail：mokusou@carmel-monastery.jp

霊性センターニュース

＊年間購読（郵送）のご案内＊



来年(2013 年)1 月から 12 月までの『霊性センターニュース』
年間購読（郵送）のお申し込みを受け付けいたします。

年間購読の場合の献金は、2500 円程度をお願い致します。
これには 11 回分の送料（8 月休刊）が含まれます。

来年 1 月以降のお申し込みは、
翌月から 12 月までのお申し込みとなります。
例：1 月申込の場合は、2 月号～12 月号（8 月号休刊除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250 円程度となります。

申込受付期限：12 月 20 日まで

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等をご記入の上、
郵送か下記の e-mail でお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》
〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院　「霊性センター事務局」
《e-mail でのお申込み》
tokyo@carmel-monastery.jp

＊何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。
Tel:　０３－３７０４－２１７１
Fax:　０３－３７０４－１７６４

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座：　００１１０－４－２９７２５０

加入者名：　カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

たまに教区の教会にミサに行くと、若者や中年の信徒の姿があまり見えない。「あ、若い人がいるな」と思うと、40 代。10 代、20 代、30 代の人々は、数えるほどしかいない。小学生以下の子供も少ない。教会学校もほそぼそと続けているところが多いのでは…。祭壇から見ていると、会衆の大半は 60 代以降のお年寄りのようにも思われる。日本の教会は、将来、どのようになるのであろうか。

ところで先月、一週間の内に三回、それも東京、名古屋、京都と異なる場所で、大勢の信徒の前で講話をすることがあった。割に老若男女が集まっている所もあれば、お年寄りが多い所もあった。私も 60 代。「老人が老人を介護するのを『老老介護』って言うけど、老人が老人に講義するのは、何て言うんでしょうかねー」と私が言ったところ、すかさず、やはり 60 代の女性が、「老老講座！」とのたまわった。

（P. 九里）

製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として毎月第四火曜日に行われます。
作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。
初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「１１月号」製本日 １０月２３日（火）　上野毛教会信徒会館ホール１階
午後１時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL　03・3704・2171